令和５年度第２回倉吉市総合教育会議　会議録

１　日　　時　　令和５年 12 月 26 日（火）午後３時

２　場　　所　　大会議室

３　出 席 者　　広田市長
小椋教育長
田民委員　　髙橋委員
伊木委員　　徳丸委員

会　議　の　経　過

（進行：教育委員会事務局長）

１　開　　会　　午後３時

２　市長あいさつ

皆さんこんにちは、今年度第２回目の総合教育会議でございます。

総合教育会議は、議会でも何かと話題にしていただいておりまして、活性化するようにという意見をいただいているところで、皆さんから活発な意見をいただきたいと思うところでございます。教育委員会の関係では、しばらく揉めていた校名問題も 12 月議会で決まって、保護者の皆様や地元の皆様にもご迷惑をおかけしていましたが、議会の方からも理解をいただき、今後入学される保護者の皆様にも関心を持っていただいた中での決定をさせていただいたということで、一先ず区切りがついたところかと安堵しているところでございます。

今回の第２回目の総合教育会議ですが、５月の時も私の方から提案させていただいたのですが、今回も提案させていただいて、地元高校の魅力化というか地元の高校が選択肢の一つに入るには地元の市町も協力してしっかりした高校づくりをしていくべきではないかという考えを持っており、自分が卒業した高校が定員割れしているということは寂しい気がして、本来は県教委の範疇ではありますが、何か協力できることがあればやっていきたいということを思って本日の協議事項にもあげさせていただきました。

ちょうど 12 月県議会でも地元選出議員が高校の魅力化について質問をされておりましたが、私もそういう気がして、いい高校があるのに何故だろうという気もするので、地元の高校も選択肢に入れるような高校づくりに皆さんからもご意見をいただきながら取り組んでいければと思っております。

本日は、前段にも申し上げたとおり、活気のある総合教育会議にしたいと思いますので、忌憚のないご意見をたくさんいただきたいと思います。

どうぞよろしくお願いします。

３　教育長あいさつ

まず、広田市長におかれましては、貴重な時間を確保して頂きまして本当にありがとうございます。

市長のご挨拶にもありましたように年に２回の総合教育会議ですので、直接教育委員さんと市長とが意見交換していただける貴重な時間だととらえておりますので、おっしゃいますように活性化できるようたくさんのご意見賜りたいと思います。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

４　協議事項

（Ｉ)地元高校の魅力化の取り組みについて

（資料により教育委員会事務局長説明）

事務局長　この地元高校の魅力化ということについては、第Ｉ回の総合教育会議の中でも中学校の進路指導という議題の中で協議していただきましたが、第一義には、高校の魅力づくりにそれぞれの高校が今後しっかりと取り組んでいただきたいということがございます。話の中で将来を見据えて中部地区にある高校以外にも学びたい専攻、コース、スポーツ、こちらでより高い指導を受けたいと希望する生徒も一定数あるという状況もございます。こういった生徒あるいは保護者のニーズがどう変化していっているのか、これらを把握していく必要があるのではないかというふうには考えております。

また、倉吉に買い物したり遊んだりする場所が少ないのではないかということが以前からも言われている中で、道路網も整備されていますので、今は小中学生の頃から保護者に連れられて東部や西部に買い物や遊びに出かけていく回数も以前より比べると増えてきているのではないかと。そういった東部や西部に行くことが子どもの感覚としてハードルになってきていないのではないかということも考えられます。

今、実際に進学先を考えるときに子どもにとって選択肢が増えるということはいいことではありますが、中部地区にもいい高校があるにもかかわらず、例えば伝え方であるとか、ＰＲが上手くできていないといった中で、進学先を考えるときに中部の高校が選ばれていない、選択肢に入っていないのではないかと危惧される声もあります。

市としても支援できるところは支援していくべきというふうには考えておりますが、改めてこの魅力化について皆さまから必要と思われる取り組みについてご意見ご協議いただければと思っております。よろしくお願いします。

市長　今日の新聞で、倉吉西高の準優勝の記事が出ていて、みんなよく頑張っているなと、小学校、中学校にはそんなクラブはないから、新たな取り組みとすればクラブ活動とすればいいなとか、自転車にしても倉吉総産や倉吉西高なども結構おられていいなと思ったり。

それで先ほど紹介したのが、鳥羽県議が指導者に長く従事してもらうのはどうだろうかと、質問され、教育長はそれも一つの方法かもしれないが、教員の資質向上という意味で同じところに長くということではなくいろいろな学校での指導体制の勉強をしていくということも育成の面では必要なことと答弁されていました。検討の余地はあるとのことでした。自転車とか弓道とか結構いいのにと思うのですが。

委員　自転車も結構いい成績残していますよね。

市長　自転車も競技用の自転車は高いじゃないですか。競技連盟が行政等からも支援を受けつつ、貸与して強化しているわけで、倉吉総産や倉吉西高がうまく勧誘していけばいいのにとは思います。

教育長　倉吉西高の弓道部の実質の指導者が教員ではない立場の指導者がずっとおられるように聞いています。

委員　部活動のことを考えると、私立高校のほうにすぐに声がかかってしまいます。そうなると東部西部に流れてしまい、子どもたちにも本当でそれでいいのか話をするのですが、それでもやはり上を目指したい、強いところに行きたいというのですが、そのあと自分がどうしたいのか考えたことがあるかと聞くのですが、実はあまり考えていない。そのままで、そういう大学に行ってとにかく競技を続けたい。それはどうかと思います。いつまでも競技が続けられるわけでもないけど、そのあとどうするかもう少し考えてほしいと思います。中高の場合、そのスポーツに特化して活躍できる。もし怪我をしてダメになったらどうするかとか子どもたちに話をするのですけども、保護者達もやはり上を目指したい、そこに協力したいという思いがあって、どうしてもそちらに流れてしまうという実態があります。

それだったら、東部西部から集まってほしい、東部から西部、西部から東部へと考えると、中部には集まりやすい。集まってほしいのだけども、そういうのはなかなかＰＲも少ないというのもありますし、倉吉農業高校や倉吉総合産業高校の実業高校は、行ってみればすごく色々なことをしているのがわかりますし、人間は食べることが重要ですので、特に農業高校は食べること、食につながるので、すごく魅力のある高校ですし、いろいろな食べるものを開発していますので、そういうのをＰＲしていって県内、東部や西部にももっとＰＲできるようなこともしてほしいと思います。

やはり中学生には、もう少しキャリア教育というのをもっとしていくべきであろうという気はしています。

委員　中部地区での進学が少なくなっているのですが、そもそも子どもの人数が減ってきているということが大きいと思うのですが、中部地区内で、中部地区外に進学した生徒の割合にしたらどのくらいのパーセンテージなのかというのが気になっております。

教育長　倉吉市内の数字ですが、約 13%くらいです。

委員　　13%ですか。

教育長　　はい、50人弱です。人数にすると1学級以上は中部から出て行ってしまっています。ざっくりですよ。

市内に限っては、87%が中部の高校に進んでいます。

これは市内の中学校ががんばっていると私は思っています。

委員　　今の話の中で、例えば市として、行政として将来の農業の従事者を増やしていく構造の中で、中学校からの体験学習と農業高校、農業大学校、鳥取大学と、こういった将来の展望が見えるような施策をＰＲできるかどうか。

併せて地元ではなく、空き家とかそういった施設の活用の中で、地域外から来ていただくような集客というか集め方がどうなのか。

スポーツでも私の知人の子どもさんも部活で県外に出て高校・大学へ行ったと聞いています。それで、将来のことをあまり考えていないですね。プロになるとかではなくて、今は小さい時から一生懸命やったから、更に上を目指していけるのだ。子どもも親も一生懸命に一緒になってスポーツに専念しているから、途中でどうなるかなんてことは考えておられない。

そうしたときに先ほど市長がおっしゃいましたが、桜に立派な自転車競技場があり、陸上競技場にはライフル射撃場があり、そういったものがあまり中学生、高校生に知らされていない。

中学生で自転車に頑張る、やりたい人？と募ったとき県外とか東西部からだと通学はどうするのか、寮があるのか。そういった事ができるのは、行政なのかなと。南部町も日野町を見ても、やはりある程度の持ち出しが必要となっている。そういったところで、中々魅力化といっても難しいなと。

有名な指導者が一人来て人気で集まってくるみたいなことになってしまうのかなと思います。何か妙案はないのかと思います。

委員　　北栄町、岩美町、日野町は、そこの町に1校しかないから、学校がなくなるとどうなるのかというのがあるから、個々に一生懸命予算をつぎ込んで、色々されているのですけども、先ほど言われたように空き家を活用するという手もないことはないけど、倉吉東高もバカロレアの認定を受けて、県外から来てここで学べますよとか、そういうこともしてもいいですけど、農業高校は寮があるからそこに入れますから。

３町にしても本当に高校をなくしてはいけないという思いで、一生懸命されています。行政の手も入っていますけど、倉吉も何らかの手を入れてもいいのかなという気もします。

教育長　　倉吉農業高校は、何年も前から県外からの生徒募集にかなり取り組んでおられますけど、中々そこに応募してもらえる生徒が少ないと聞いております。

例えば、米作りでミルキークイーン、今年は品種が変わっていましたけど、７年か８年か連続で金賞をとっていますから、そういうＰＲもあるし、青パパイヤの研究のこともあるし。

委員　　この間のフォーラムの選定士の話は、すごい話でしたね。

教育長　　そうです。

そういうところが応援できれば。

委員　　量の問題もあるでしょうけど、ふるさと納税の返礼品とか、いろいろなことが考えられるでしょうけど。

委員　　倉吉農業高校の優秀な生徒は鳥大への道もありますし。

教育長　　そうなのです。

委員　　推薦で農学部に行けますから。

委員　　そういうのが県内の人はあまり見えていないのかもしれませんね。

教育長　　進学校から鳥大の農学部に入るより倉吉農業高校から推薦でいった方が入れてしまうのですけど、何か子どもたちには、今一つ響かない。

委員　　農業高等学校という名前が、大学行くのにイメージが沸いてこないということがあるのかもしれませんね。

生徒が集まっている高校というのは、スポーツで抜群に知名度が高いというのか、大学の有名校への進学率が非常に高いとか、そういったアドバルーンがまずあって、だんだん高校のレベルが上がってきて認知されるとかという順を踏んでいるのではないかと思うのです。

あとは、倉吉農高の寮が非常に近代的でいいとか、快適な寮だとか。そういったことも今の時代は必要なのかなと思います。

委員　　うちの子も中学校の時にサッカーのクラブチームに入っていまして、そのチームにいるほとんどの子は、最初からサッカーをするために私立の高校だとか県外の学校に行くというスタンスなのです。あわよくばプロになりたいという感覚はあります。本当にわずかな人しかなれないのだけれども、それを自分がやりたいという気持ちで、クラブチームに入る時点で思っていますから。だから地元の学校へ行くのと半分くらいですね。半分くらいは東部・西部、県外のサッカー部を目指して行ってしまうという感じだし、最初の説明にあったように、保護者は子どもの考えを尊重したい。だから送迎も頑張っていく、という感覚なのですけど。

西高の弓道部を卒業した子が、アルバイトで来ていますけど、本当にすごく意識が高いです。一日も休みたくない。一日でも休んだら、自分の力が退化するかもしれない。という。

今、県外の学校に行っていて、帰省していて、西高に頼んで毎日練習に行くと言っていました。それだけの意識の高さがあって。ただ、弓道にしても自転車にしてもお金がかかるというところがありますよね。知人の子どもさんが弓道部に入って、何十万円も払ったと。

教育長　　道具ですか。

委員　　道具です。一揃い。すべて買うと結構かかるみたいですね。

それでも何とか集まってきてくれればいいと思うのですけど。

委員　　私も保護者という立場でしたら、ロコミといいうのはすごく大きいなというのは感じていて、実際にそれを見たりするわけではないのですけども、やはり、話とか噂レベルでもそうなんだと思ってしまうところもあったり、というのはすごく大きくて、今話題になっている鳥取城北っていいよねとか小学校の保護者さんの中からも出ていたりして、やはり鳥取城北高校は部活動とか、進学だったり、かなり特色があって、いい流れになっているのをニュースだとか新聞でも見たり、保護者間でも出たりするので、ロコミというのは大きいと感じます。

委員　　鳥取城北高校というのも変わってきましたよね。私たちの受験時代とか高校の時代と今の時代の鳥取城北高校と全く違いますし、建物とか寮とか設備とか含めて、変わってきましたね。

今はスポーツとか、日本語学校とか、いろいろな手を広げたり寮も新しくされたり、設備を整えてきておられますし。

それから、敬愛高校もスポーツに力を入れられたりしながら、生徒を集めてきておられるし、そのあたり、具体的に改善するのなら、ある程度の年数が必要だと思います。

委員　　サッカー部の中に鳥取城北高校に行った子もいたのですが、鳥取城北高校へ行った子のお母さんがとても話し上手で、今で言うインフルエンサーのように今の学校はこうで、こういうこともあるし、こうなんだよとよく話をなさっていたので、そのクラブの中では鳥取城北高校が一番みたいな感じもあったような気がします。

だから、ロコミというのは大きいかなという感覚はあります。

委員　　どういった種目とか科目とか、何で目指すのかということですね、高校自体が。特色というか。

例えば、３年生のうち半分は東京大学へ行っていますとか、そんなふうになれば来られるのでしょうけど。

市長　　倉吉東校がバカロレアでどう動くか。

教育長　　実質動き始めるのが今度の４月からと聞いています。

委員　　委員がおっしゃったように、県外からとか他地区から呼んでくるのに寮生活をしてもらって、その中では英語しかしゃべれないとかそんな特色を出しながら、行政の方も補助をしながら、そうすることで魅力化をしていくとか、県外から来たいろいろな高校生が一つの寮に入って生活できるような宿泊施設を準備するとか、そういったことで中部の学校を広めていくのも一つなのかもしれないなと思います。

教育長　　本当かどうか自信がないのですが、倉吉北高校は寮を持っておられますよね。そこに県立高校の生徒が入れるようになった話を聞いた記憶があります。

市長　　ありました。

教育長　　ですから県外あるいは中部外からくる子を受け入れるところは何とか出来

つつあるのかと思うのですけども。

それから先ほど市長が言われたバカロレアは、一回りして卒業した子たちがこういうふうに進めますとか、こういう結果が出ていますというところが見えないと、中々魅力がうまく伝わらないというところがあちこちの記録を読んでみますとそう書いてありますので、あと２年くらいはかかるのかなと思います。

委員　ちなみにそのバカロレアは、英語の成績が良くないと難しいのでしょうか。

教育長　いいえ、そんなことはありません。英語が好きだったら伸びていくと思います。好きですから。

委員　中学校３年生の時点での英語の成績が芳しくなかったとしても好きだったら大丈夫ですか。

教育長　はい。大丈夫と思います。

倉吉東高には 20 人程度定員の１学級でバカロレアコースにつながる中高一貫校学級が作れませんかと、３、４年位前から言っているのですけど。

委員　どういうことですか。

教育長　何をしないといけないかというと、中学受験をしないといけないのです。県内にはほとんど小学生が中学受験をするなんてないでしょ。

そうすると小学校には大きな波が来て変われる起点になるのかもと思っているのですけど。

委員　それは倉吉東高のところでということですね。

教育長　倉吉東高の校内に。バカロレアのプログラムは、小学生用、中学生用、高校生用と全部あるので、どこからでも始められます。

ですから、高校の３年間だけでなく、中学校も含めて６年間だったら、よりバカロレアの目指すものに繋がってくる。

私学でバカロレアに取り組んでいるところは中高一貫校が多いです。

委員　先ほど、口コミでという話をしたのですけども、やはり中学生と保護者にどれだけ中部に魅力のある高校があって、それが今は選択肢のうちには、入っているとは思うのですけれども、選ばれない傾向にあるのは、やはり、あまり知られていない部分もあるのかなと。その高校のいいところをあまり知られてないのかなと思う部分もあって、私はやはりそこは地域がもっとバックアップすべきではと考えていまして、保護者としてはやはり何か義務教育が終わって、高校となると何か少し地域から離れたような感覚に思っていて、例えば倉吉農業高校だったりすると、地域資源を生かした特色あるカリキュラムだったりとか、多分授業であるのではないかとは思うのですけれども、個人的にはそういった地域との繋がりを中部地区の６高校が、それぞれ繋がりが持てたらいいのかなと思っているので、だから北栄町の専門員さんを配置された取り組みはとてもいいと思います。学校の職員が紹介するのではなくて、第三者が紹介してくれるというか、地域をつなげる役割をしているっ

ていうのがとてもいい取り組みだなと思いまして、こういったことが倉吉でもできたら、もう少し変わってくるのかなと思いました。

事務局長　先般、倉吉東高の生徒さんが、小田急のプロジェクトの関係で、倉吉のＰＲ動画といいますか情報発信の動画を作っていただいたりしたのですけども、例えばそういったような生徒たちでの取り組みは自分たちの高校ＰＲをしてもらうのだとか、実際に中部ハイスクールフォーラムをしたときにも、高校生が自分たちの学校の魅力を伝えたり、市内の中学校からも生徒が、すべての学校からだったと思いますけど参加をして、話を直接聞いたり、或いは分散会では、もう少し取り組みを教えてくださいというように直接質問をしたりという場面もあったりしたので、そういう機会はやはりたくさん作っていく必要があると思っているところですが、市長、倉吉東高の生徒さんが作られた動画の反響というのはどんな感じだったでしょうか。

市長　一生懸命ＰＲはしたけどあんまり話題はなかったのかな。

でも、そのハイスクールフォーラムでも彼女たちが、ＰＲをしたり、それから東京の鴨水会の総会かな、そこでも私たちはその地域のために、地域をもっと盛り上げていきたいので、資金を必要としますから、募金をくださいと言って募金箱を事務局に預けて、10 万円位集まったとかで、その何か地域のことを結構考えている学生さんというのも結構おられたりして、おっしゃるように私たちはこんなことやっていますと、そういう一部の高校生は自分たちでも一緒にＰＲをして、一緒にやりませんかという呼びかけをハイスクールフォーラムの時にもやっていて、中々楽しいなと思って見ていたのですけども、何ていうかそこまで周りがついて来ないということもありました。

倉吉西高の生徒さんは、市長と話しょいやということで、今、地元から一回県外に出てしまっても、戻ってくるだよと言いつつ、戻ってこないかもしれないなと思いながら見ていました。

倉吉東高にはこんな生徒がいて、倉吉を東京でＰＲしたいと小田急線の車内動画を作って、倉吉ってどこ？ということで、スマホで調べる、そして倉吉を知ってもらうきっかけにはなったなと。そして、皆さんに地域のことを振り返ってもらうようなことにつなげてもらったらという話をして、パネルディスカッションで、パネラー以外に質問しませんかといったとき、銀座商店街を盛り上げるために市はどんなことをしているのですかという問いには、経済的な支援をしたり、一緒に取り組んだり、中部地震からの復興を行政とともにやってきましたよと答えたら、引き続きやってほしいとかの声が聞こえたりして、考えている子は結構いるのだなと、うれしく、頼もしく思ったところです。

思いのある子はいるのですが、みんなが一緒になってやるという勢いとか元気がちょっとね。学園祭とかのあの勢いというのが今の高校生からは感じられなく、ああいう弾ける感じ、今の高校生はあまり好まないのかなと思い

ます。

委員　　前はデコ作って市内を歩きましたよね。

市長　　そうそう。

委員　　あれは大変だったですね。

市長　　当時、１年から３年までで縦割りでチームを作って皆で一生懸命作ってやっていましたから。

委員　　縦割りチームは今でもありますよ。倉吉西高も倉吉東高もチームで活動しています。ただ一つ残念だったのは、コロナでしばらく制限されていたということもあるのですけど、去年、子どもの友達がバンドを組んで学園祭でライブをしようと計画をして、有料のスタジオも借りて練習して、先生へも企画書を提出して、計画が変わるたびに提出していたのに、直前になってダメだといわれたのだそうです。パンフレットにも写真が載っていて、応援してくださった先生もおられたらしいのですが、ダメになってしまったそうです。ですから弾けたい子は絶対いると思います。頑張っている子はいると思います。そういう制限がかかってしまったのは少し残念だったという感じです。

市長　　コロナも明けましたから、そういう子がいるとすれば応援してあげたいですね。

委員　　そうですね。

市長　　なかなか難しいのかな。

委員　　特色のあるためには、高いレベルの部活動ができますよ、多様な学びができますよ。という魅力化を各高校でやっていただくというだけの話かもしれませんね。

市長　　例えば米子北高や鳥取城北高校のメジャーだといわれる中で、自転車や弓道が中部にはありますということで生き残れないのだろうかと思ったりしているのですけど。

委員　　自転車も弓道も好成績は残しているのですけどね。

　　総体とか次々出ますよね。

教育長　　スポーツクライミングもいいと思います。

　　スポーツクライミングだと全国から集まるかもしれません。

委員　　小学生もやっていますから。

市長　　鳥取中央育英も安井先生がおられたりしてそういう歴史もあったのに、北条中学校の生徒さんはほとんど鳥取中央育英にはいかないという意思表示なのか。

委員　　スポーツ科ができたときはすごい競争率でしたよね。

市長　　駅伝も両方とも鳥取城北でしたしね。

委員　　駅伝も勢いがなくなってしまった。

委員　　スポーツクライミング、いいですよね。

教育長　　いいと思います。

委員　　そうすると、やはり住むところを手配しないといけないですね。

委員　　スポーツクライミングは何か始めやすそうな感じがしますね。道具とかもそこまでなく、場所さえあれば。倉吉体育文化会館にもありますけど。

委員　　弓道も、スポ少ではないのですけど、小学校に道具を貸与して小さい時から馴染ませるという意味合いでは、何か手はあるかもしれないですね。

教育長　　倉吉総産か倉吉東にスポーツクライミング部を作ってもらうよう頼んでみましょうか。

委員　　鳥取市は専門の弓道場がありますからね。

　　だから、社会人もそこで練習して鍛錬、素人もそこで鍛錬して上手になることもあるので、倉吉にあるのは赤瓦にある的場ですよね。あそこは弓道ごっこができますよね。もっと市民が親しめるような競技になっていくと、親から子にとか、子も小さい時からくるとか。カヌーもそうですよね。

教育長　　カヌーも強いですから。

委員　　カヌーも大山池でやっていますよね。そういう意味では発掘すればまだまだお宝があるのではないでしょうか。あとはそれをどう組み合わせるかということではないでしょうか。スポーツで言えば。

委員　　どこか人が集まる場所でそれを披露するとか。

委員　　カヌーとかはコミュニティセンターが中心となって青少協で小学生を集めてやっていますよね。

市長　　確かにクライミングも先日子どもを集めて教室やって、親も一緒になって一生懸命やっておられて。

委員　　やってみると意外にきついのでしょ。やったことはないですけど。

市長　　きついです。頭使いながら結構やっていますから。

教育長　　専門家に言わせると、ものすごい体力や運動能力が高くなくてもできると言われます。私には理解できませんけど。

　　見た感じ華奢ですよ、日本代表の選手たちを見ても。筋肉もりもりというわけではないし、普通の人みたいな体型ですよね。

市長　　手が長くて足が長い方がいいかなと思うと、優勝したのがそんな体形でない選手が優勝したりしています。

教育長　　体験会はいいかもしれませんね。

　　自転車、弓道、スポーツクライミングの体験会

　　小学生向け、中学生向け。市内にあるものを使って。

市長　　せっかくだから、県教委と一緒になって体験会を。

委員　　指導者の育成ですかね。

市長　　そうですね。

教育長　　指導者は間違いなく必要です。

事務局長　　県教委とも、情報交換しながら市としてできることを何とか取り組んでいきたいという中で、委員からもありましたように、その先をきちんと考えて

いかない生徒もいるのではないかという話もございましたが、その辺りもしっかりとキャリア教育の部分で、将来しっかりと考えるように。

一番は教育環境を整えることもですが、子どもが社会に出たときに、中部を卒業した子はいい子ばかりだといわれるのが一番の口コミになるのかなと。たとえ、就職して県外に出てしまったとしても、何年先になるのかわかりませんが、口コミで広がるといいなと言うふうに思っています。

それから先ほど体験会の話がありましたけども、陸上競技で400メートルハードルでしたか為末 大という選手が、マイナーな競技を何とかしたいと、東京丸の内の通りを貸し切って、一流選手を集めて、パフォーマンスをやったりという取り組みをされてましたが、間近で一流選手のそういったものを見るとか体験するとかというのは非常に大事な部分かと思いますので、中部にあるクライミングとか強い弓道、自転車、レスリングも倉吉総産が強化指定校になっていると思います。そういったことも考えられる機会があればいいのかもしれません。ありがとうございました。

続けて、次の議題に入らせていただきたいと思います。

（２）ファミリーホリデー（仮称）［体験的学習活動等休業日］について

（資料により学校教育課長説明）

事務局長　ファミリーホリデーということで、体験的学習活動等休業日ということになっております。

昨今技術革新によりましてバーチャル的な体験ですとか、リモートですね、遠隔地であっても見聞きして、やり取りできる社会になってきましたけど、やはり本物に直接触れる、体感をする。こういう体験活動は子どもにとっては貴重なものであるのには変わりないと思っておりますが、一方で、この動きは年次有給休暇の取得の促進、あるいは働き方改革の推進が大きいところの背景にあるというところは皆さまにもご理解いただいているところだと思っておりますし、県内でも取り組んでいる自治体はまだ少ない所でございます。

先ほどすでに取り組んでいる鳥取市等の報告もございましたが、実際に小椋教育長も倉吉商工会議所へ訪問されてファミリーホリデーの取り組みについて打診といいますか意見交換をされているところでございます。やはり商工会議所としても、まずはこれを導入したときに保護者がどういうふうに思われるのか、あるいは、倉吉市内には中小企業が多いのですけど、有休取得にすぐに結び付けられる企業があるだろうか、と懸念されるところについては、ご意見として出していただいたところでございます。企業にとっても何かインセンティブがあれば動機付けになるかもしれない。という面はあるかと思います。

今、鳥取県の方が男性の育児の参加を促すために、色々な取り組みをされ

ていて、取り組みされている企業については、県のホームページで公表されたりとか表彰されたりとかそういった取り組みをされてはいますけど、まずはこのファミリーホリデーの意義、これから導入にあたってどういった機運醸成等を図っていくべきなのかをそこら辺りで意見交換をお願いできればと思っております。

まずは教育長、商工会議所はどのような感じだったのでしょうか。

教育長　進めていただいてもよいという結論はいただいておりますが、ただ心配事は先ほど事務局長が説明したように、保護者がどういうふうに捉えておられるのかというところは確かにありました。

少し補足すると、学校教育課長が資料どおりのこんな活動ですとまじめな報告をしましたが、愛知県では、名古屋市以外は少し別のやり方で進めておられて、記録を読んでいくと、ＵＳＪでも東京ディズニーランドも可ということになっております。

とにかく「親子で過ごす時間を大切にしよう」というところが第一義に出てきているところのようで、本市で何か実施しようと思ったら、図書館で何らかのイベントをするとか、博物館で何かと思うのですが、可能な家庭は、キャンプでも釣りでもＵＳＪでもどうぞというふうに私は受け取っています。

委員　当然自費ですよね。

教育長　そうです。

あとはその休みをどこに設定するのかということですが、多くはゴールデンウィークのどうしても休みにならず、学校に行かないといけないところを一気に休みにされるところもあるし、11 月 23 日のあたりを３連休、４連休にして、年によって曜日が変わる可能性があると思っていますけど、そういうところを説明してご理解いただくのかなと思っています。

委員　なかなかサービス業は難しいですね。

なにかファミリーホリデーと聞くと家族で休もうかという感じですけども、趣旨からいうと、大人と子どものふれあい、体験ということで、本当にファミリーという名前、ネーミングはいいと思ったのが、家庭や地域での体験的な学習と書いてあるので、ファミリーと書くと家族に縛られるような気がしたので、そういう違和感は感じました。

教育長　仮称ですからどういうふうに変えていただいても構いません。

委員　あと、教育長がおっしゃったように年間を通じると、建築関係とか、森林関係の様々なイベントがあります。あれを全部１カ所に持ってくると、あまり考えなくてもいいのかと。子どもだけでも参加できて、食事も摂れてということになれば、いいかと。その中でスポーツ体験だとか、色々な林業体験とかもできるのではないでしょうか。

それこそ農業高校に行って農作業をしようとか、色々なことが考えられま

すけども。周知の問題です。子どもは単に休みになって喜んでおしまいにならないように、意義を大人が本当にわかってもらえるようにしないといけないなという感じはします。

委員　成人をするまでの子どもが対象ですか。

教育長　小学生、中学生です。

委員　子どもと家族で何かをしようということですが、例えばインドアの人、出かけるのが面倒くさい人、家の中で寝ていましたというのは。

教育長　家の中でも何かしておられても体験的活動です。

委員　家の中でボードゲームしていました。でも。

委員　ふれあいでしょうから。

事務局長　市長、ＵＳＪいいでしょうか。

市長　ＯＫしたら、みんな県外に行ってしまうよということをちょっと言ったのですけども、先ほどの前段の話で行くと、クライミングの施設を全部オープンにして、使ってもらう、バンクを走ってみるとか、前段の話とタイアップさせてもらって、親と一緒に体験会に来てもらって、やってみるというのであれば、いいかもしれないと思ったのですが、ただ、サービス業の人、そこが儲け時期の人達はなかなか難しいとは思いますけど。

委員　その中で、青少協とかの地域の方が引率するとか、市のスクールバスとか空いている車を利用して、募集をかけて集まって行ってもらうとかいうことを全体的に考えないと、鳥取市のように全庁的に考えていくということが必要になってくるのでしょうね。

市長　事例としてそういうのはいいと思うのと、企業の参加を促す分としては、企業の方も何かしらインセンティブが働くみたいな話になると、こういうファミリーホリデーの協力企業とかで認証してあげるとか、やはり働き方改革を推奨しているとか、そういう企業なんだということで人材確保に向けてはそういう制度上の休みを取りやすい企業としてＰＲすることで、また人材確保につながるのかというようなことはありうるのかな。

大手企業は大体休んでしまわれるでしょうから。

委員　アウトドアばかりではなくて、給食センターは使えないかもしれませんが、和菓子とか、そば打ちとかそういう食に関するものも行事の中の一つとして外ばかりでなくてもいいのかなと。

教育長　おっしゃる通り可能なら、例えばコミュニティセンターで、この日に何か計画してもらえませんかとか、いろいろやっておられる何々教室をこの日にお願いできませんかとか、増やすのは負担になるので、それくらいのお願いはできるのかと。

委員　色々なものができますよね。新たなものではなく、既存のものを活用しながらファミリーホリデーを有効に活用する。

市長　できれば地元で過ごしてほしいです。

教育長　　そうなのです。

例えば来年のカレンダーを見ると、ゴールデンウィークの間３日間あります。仮にそこを全部休みにすると 11 連休です。海外旅行が可能です。

来年度、いきなり 11 連休は無理かなと思うのですけども。

委員　　今は、海外旅行とか、義務教育だけども休んでいってもいいのではないかという家庭も増えてきましたよね。

委員　　ある程度取りやすい曜日に設定して、そういうのもしてもいいかもしれません。別にゴールデンウィークに限らず。そういう設定もありかと思うし、問題は中小企業も企業主の意向が強いというか、意識も変えてもらわないといけないですが、大分変わってきているのですが、人手不足というのもあって、中々企業も難しいかなというのもありますが、そこは思い切って進めてくださいとお願いするしかないのかも。

教育長　　この件は、中学校ＰＴＡ連合会からの要望書の中にあった一つの項目なのですが、多分ファミリーホリデーに指定した日は、趣旨からいうと部活動は、なしにしないといけないと思うのです。

委員　　そうです。

教育長　　そうすると、ゴールデンウィークの間の何日かは、６月の県総体の中部予選があるので、練習試合と練習がずっと入ってきますから、そんなことをしてはいけないと言わないといけないようになります。

それを学校がどういうふうに受け止めるかということもあるし、もちろん保護者の皆さんが、部活動とのバランスはどう考えるのかとおっしゃるのかもしれません。

委員　　そこが望ましいのですけど、別のところでもいいわけですね。

教育長　　はい。本当に個人的な思いですが、もし、６年度に実施できるのであれば、11 月 23 日の前後の金曜日か月曜日か、あるいは両方か。そうすれば３連休か４連休になりますから。その辺りで一回試して見れたらいいなと考えております。勝手に思っているだけですけど。

委員　　でも、11 月に実施するなら、今から動かないといけないですね。

教育長　　はい。

学校は来年度の年間スケジュールもほぼ固まっていますので。

委員　　今あることを変えていくということは大変なことでないですか。何でもそうだと思うのですが。最初は違うことをすると皆が「えー？」と思うのですけど、時間がたって慣れてくればそれが当たり前になるというか、例えばマイバッグは、今は当たり前です。言い始めたのは 30 年位前だったかと思うのですが、今は当たり前になってきたという、その最初は反対があったとしても、やってみる。休みにくいと言われても、それが慣れてきて当たり前になってくれば、いいのかと思います。

事務局長　　委員、お勤めだったころ、職員の年休を促すために家族との時間をという

ことはどうでしたか。

委員　色々な休暇が増えました。労基法の改正があって、どんどん休ませないといけないということがあって、以前は年間で11日はとるようにとなっていましたが、今はボランティア休暇も入っていますし、色々な休暇があるので。

私のいた部署は、休まないと悪いことをしているというふうに見られがちだったものですから、連続して1週間休むとかは当たり前。

恵まれた企業だったと思います。休みを取っても問題がなかったというわけではありませんが。ただ、地元の中小企業は一人でも休むと会社を閉めないといけないということも出てくるので、非常に難しいとは思います。

特にゴールデンウィークなどは稼ぎ時でもあるでしょうし。いろいろな意味あいの中で。

ただ、そこに体験学習として、高校生が手伝いに行くとか、ということになれば、お互いに持ちつ持たれつでいいのかなと。

教育長　ですから、試みてみるとすれば、やはり何らかの受け入れ場所を可能な限り、初年度は教育委員会の中でできる範囲かもしれませんけど、鳥取市みたいに全庁的にといわれるのは本当にごもっともだと思います。

委員　今あるイベントの中で、11月にもってきていただいてもいいイベントはないか、そこの所管に声をかけるとか小規模でもいいからやってみるということが大事でしょうし、「あなたも今日から図書館司書」みたいなイベントをやって親子で来てもらうとか、子どもだけでもいいですし、コミュニティセンターで給食を作っていくとか、小さく始めて見られてはどうかと思います。

委員　委員が言われているのと同じことになるのですが、保護者が休暇を取れない等の子の配慮をされた上で、例えば児童クラブを利用している子どもも参加できるイベントとなると、やはりコミュニティセンター行事、青少協だとかそういうものになると思うので、そこは各地区で一緒に考えていった方がいいのではないかと思いました。

事務局長　どうですかファミリーホリデーの導入は？

委員　進めてもいいと思いますけど、5月の11連休は長すぎるかと思いますので、11月の方がいいと思います。長く休みすぎると、親としてはいろいろ心配になってくる部分もありますし、生活のリズムも整えたいと思うので、長期というよりは4日くらいがいいかなと思います。

委員　これがいい具合に各学校でやっておられる職業体験に代わるようになれば、学校の教職員の方の負担も減ってくるのかなあとは思うのですが。あえてしなくてもこういったことで勉強してもらうとか体験してもらうということで。それを各自がレポートをまとめて、例えばプレゼンテーションができるようにやっていくとか、色々と将来的には発想は、どんどん広がっていけるのではないかと思います。

委員　最初の話で出ていた体験会も持ってきてもいいですね。

教育長　　もちろん。段取りが上手にできて進めば可能だと思います。

先に言わないといけなかったかもしれませんけど、年間のファミリーホリデーの総日数は、最大でも３日まで位かと思っています。どこに設定するかは別として。初年度は１日でもいいですし、土日を挟んだ金、月の２日でもいいです。学校教育課長が報告した中で心配した年間の授業日数には影響しません。その分は増やせばいいので、大丈夫です。

委員　　３日くらいというのは１日ずつとかもありですか。

教育長　　それもありですし、連続したところに３日間入れることもあるかもしれませんし、それは各方面でご意見を聞きながら検討していけばいいです。

ただ、給食センターは稼働日が増えます。

学校給食センター所長　　いいえ、その分はファミリーホリデーの時に休みます。

教育長　　大丈夫ですか。

事務局長　　高校の日数は増えてくるのでしょうか。

教育長　　そのことは今のところは聞いていませんが、高校からは、倉吉市の小中学校がこの日と決めてもらえば、高校もそれに合わせるということも考えられますと言われています。

事務局長　　できればズレていた方が、高校への体験に行く機会があったりするのかと。

教育長　　家庭から考えると、きょうだいが中高におられるとか小中高におられる家は、下の子から高校だけ休みなのはずるいという声も実際に出ているそうですから。

事務局長　　結局、高校が休みになってしまうと、先生も休みになってしまうので、体験が調整できれば。

教育長　　その辺りは、いくらか調整ができる可能性はあると思います。

市長、どうでしょうか。試みてもいいでしょうか。

市長　　やってみればいいけど、最初から３日というより、１日とか２日とか、企業さんの取り組みとか協力具合も見てみたいし、どういう具合に過ごされるのか、一部はそういうふうに取り組んでおられるけど、地元の方の協力や、体育協会とかスポーツ団体の協力だとか早めに決めておいて、それに合わせてやってみるということを意見交換して、企業さんにも早めにそれを周知して、この日は休みましょうとか。

事務局長　　意向調査だとか、保護者アンケートとかそういったことはどうでしょうか。

教育長　　そこは少し悩みどころで、これについてはアンケート取らなくてもいいのかと思っていますが、やはり意向は確かめてから動いた方がいいのかもと思っています。

委員　　意向というか、体験的学習活動等休業日の意味とか意義というのをまずお知らせして、協力をお願いする。ＰＴＡとか保護者の方に言うということは、お勤めもされているだろうという前提で、家の中でも認識というか周知して

おいてください。一方では商工会議所を通じてお話をしておくという色々なところに声をかけておくということが必要だと思います。

教育長　　商工会議所の方からは、可能な限り周知の協力はすると言っていただいております。

委員　　１００％の賛成はないですので。

教育長　　それはないと思います。

委員　　こども園や保育園など、鳥取市とかはどうなのでしょうか。

教育長　　鳥取市、琴浦町、南部町は、小・中です。

委員　　こども園にもなるべく情報は流して、なるべくこういう時は家族と過ごしてという周知はしておかれた方が。

教育長　　そうですね。周知は市内全体にしないといけないと思いますので、動き出すのであれば。

事務局長　　ありがとうございます。よその取り組みもしっかり研究させてもらいながら、前向きにこれを取り組んでいくというご意見をいただいたかというふうに思っております。

いきなり、規則改正をやって進めるという方法もありますし、とりあえず試行的にやってみて反応を見る。というようなことも大事かなと思っておりますので、そのあたりのやり方についてはしっかりと詰めていきたいと思っておりますが、前向きにこれをとらえていきたいというところで、本日の総合教育会議のご意見ということで、まとめさせていただきたいと思います。

ありがとうございました。

５　その他

協議事項としましては以上で終わりたいと思いますが、そのほかの件で、せっかく市長と協議できる場でございますので、何かこの機会にお話ししたいこととかございませんでしょうか。

委員　　一ついいですか。この間の定例会で、倉吉市歌の話をしましたよね。その倉吉市歌をはたちのつどいの時に歌っていますということだったので。

私は小学校の時の鼓笛隊で演奏していたので、市歌は知っていましたけど、歌詞は知らなかったです。

市歌を歌う機会というのは増やせないでしょうか。

先日、みんなで市歌を歌う機会を作ったのです。作ったのですけど、メンバーの中で知っている人がほとんどいなかったです。成徳小出身の方はご存じだったのですけど、ほかの方は全くご存じなくて、せっかくですから、皆さんに周知できる方法はないでしょうか。

市長　　いつ歌っているのかな。はたちのつどいの時以外で歌っているのですか。

教育長　　はたちのつどいだけですね。

市長　　前の中学校の応援歌では歌っていなかったでしょうか。

教育長　　昔はわかりませんけど、ここ 10 年 20 年はないと思います。市歌、学校で歌っていません。

市長　　ああ、そうか。

教育長　　学校でもし歌えと言われるのであれば、週一回全校で集まる集会とか、そういうところですね。校歌は歌いますけど。集会でも。

委員　　昼休憩の給食の時にちょっと流してもらうとか。そうしたら覚えるかもしれない。給食の時に。

市長　　リズムだけでも耳に入ってくればね。

教育長　　給食の時間あるいは掃除の時間でもＢＧＭで流すとか。

　　だけど、掃除の時間は生徒のリクエストを受けて流しているというところが多いので。

委員　　この前の話だと、運動会の入場行進に流すとか。各学校の入場行進は市歌。

教育長　　今、運動会の入場行進はしない方向になっています。時間短縮で。

委員　　企業で新しい歌を作ったときに、動画を作って流しましたけども、新人の研修の時には朝からその曲をずっと流していました。でも、誰も覚えてくれませんでした。どこかで流すのはいいかもしれません。耳にすうっと入ってきますから。

市長　　そうですね。

委員　　何か聞いたことがあるみたいな。

教育長　　市役所の電話の保留音でしたっけ。

委員　　待ち受けです。今流れています。

事務局長　　市の職員で何割くらい歌えるのでしょうか。

市長　　リズムも知らないかもしれない。

事務局長　　市外出身者の採用も増えていますので。

委員　　それこそ倉吉市ではないですが、北栄町は何かの時に防災無線か何かで流れるそうです。

教育長　　夕方の 6 時のお知らせだとかそういうのですか。

委員　　そういうことを聞きました。

委員　　郡部の方は、昼の方が多いですね。

市長　　まあ、ちょっと考えてみます。

　　学校の給食の時間とかリズムだけでも知ってもらえるというのはいいかもしれない。

委員　　リピート放送で朝登校する時間に流しておいてもらうとか。

　　読書の時間になると止めて。

　　登校の時には各クラスに流れているというのも方法の一つかもしれない。

委員　　ＢＧＭのようにね。

教育長　　確かにできないことはないと思います。あまり長い曲ではないので、始業

前に何分間か流すとか。

委員　　子どもが家に帰ってこんな曲が流れていたけど、知っている？なんて会話が始まるかもしれません。

委員　　保護者の方も知っておられますか。

委員　　ご存じないかもしれません。

事務局長　　社会教育課長、はたちのつどいの時は市民憲章も読み上げますよね。

社会教育課長　　両方あります。

市長　　そうか。はたちのつどいだけしか歌わないか。

教育長　　例えば、倉吉市の表彰式の時にも流すとか。

　　市が主催する大きな行事で流すということは、あってもいいのではと思います。

市長　　もう一回再認識してもらうということで、考えてみましょう。

事務局長　　また市の内部で提案してみたいと思います。

　　ありがとうございます。

　　（その他　意見なし）

事務局長　　それでは令和５年度２回目の総合教育会議を終了したいと思います。貴重なご意見ありがとうございました。

午後４時45分　終了